

(写真上) 告示仕様の木造耐火住宅1号棟の建て方工事。外装材に耐水機能を持つ石膏ボードを使用している。

(写真右) 1階壁面。2m×660mmのボードを1枚目は横に張ってビス留め、2枚目は縦に張って接着剤とステーブル(タッカー)で留めている。



# 荒川区内で第1号の建て方工事開始 日本初・告示仕様耐火住宅

ハセベ  
(東京都)



今年8月に告示が交付・施行された木造の耐火構造(1時間耐火)。その第1号となる告示仕様耐火住宅が、東京都荒川区で建設中である。設計・施工は株式会社ハセベ(長谷部尅彦代表取締役会長)、10月末に着工、2月に完成の予定。本誌は12月1日に関係者・報道向けに公開

された壁工事の現場を取材した。建設現場はJR町屋駅から徒歩10分ほどのところにある約100平米の3階建ての建て売り住宅。尾久の原防災通りのそばで防火地域に指定されている。

## 石膏ボードを外壁に

現場に着くと、ちょうど軽トラックから青色のボードが搬出されている最中だった。このボードは外壁に2枚張りを使うもので、耐水性に優れた石膏ボードだという。外壁に石膏ボードというのは意外だったが、ツীবайフォー協会の耐火住宅の認定工法ではすでに50棟ほどで導入されている。開発した吉野石膏によると、告示仕様で第1棟目の導入にあたっては、荒川上流域で200年に1回起きたことのある546ミリのゲリラ豪雨を予測して実験を行ったところ5%以下の吸水率であることを確認したという。取材当時は雨でシートの隙間に位置するボードは吹き込む雨水で濡れていたが、性能に支障はないという。ただし2週間も雨が降るなどの長期の降雨に対しては屋外での暴露を避けられる現場環境が必要とのこと。